

積算基準	土木
現場中間検査	要
工場等派遣中間検査	不要
樹木保険加入	不要

工 事 設 計 書

事業年度	令和 7年度			
設計年月	令和 年 月			
予算科目	款	項	目	節
工事場所	京都市中京区壬生朱雀町他地内			
路線名又は河川名等				
工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事 (4 工区)			
工 期	契約日の翌日から令和10年 3月15日まで			
事業課(所)名	道路環境整備課	単 価 使 用 年 月	令和 年 月	
工事番号		歩 掛 適 用 年 月	令和 年 月	
変更回数		基 準 適 用 年 月	令和 年 月	
主 工 種		単 価 地 区		
前 払 金 支 出		調 整 区 分		

京都市 建設局

チェック欄	

工 事 概 要

工事延長				m	325.7
電線共同溝工(管路部)	m	5,195.2	プレキャストボックス工(特殊部)	個	14
車道舗装工	m2	974.8	歩道舗装工	m2	535.7
排水構造物工	式	1	道路付属施設工	式	1

施 工 理 由

本工事は、後院通において安全で快適な歩行空間の確保、都市災害の防止及び都市景観の向上を図るため、電線共同溝工事及び道路改良工事を施工するものである。					
--	--	--	--	--	--

		設計額		請負額	
		金額	増減額	金額	増減額
工	事	前回	円	円	円
		今回	円	円	円
内	工 事 価 格	前回	円	円	円
		今回	円	円	円
訳	消費税相当額	前回	円	円	円
		今回	円	円	円
支	給 品 費	前回	円	円	円
		今回	円	円	円

積算参考資料（間接費補正一覧）

単価使用年月	2025年9月	
歩掛適用年月	2025年9月	
基準適用年月	2025年9月	
単価地区	2601: I 地区	
調整区分	本附帯工事	
現場環境改善費（率計上）		
市街地補正	市街地	
共通仮設費（率計上）		
主たる工種	35:電線共同溝工事	
施工地域等補正	大都市（2）	1.5
I C T 施工補正	補正なし	1.0
週休2日補正	補正なし	1.00
現場管理費		
施工地域等補正	大都市（2）	1.2
I C T 施工補正	補正なし	1.0
週休2日補正	補正なし	1.00
一般管理費		
前払金支出割合による補正	補正を行わない	1.00
財団法人等による補正	補正を行わない	1.00
契約保証に係る補正率	金銭的保証	0.04%

見積参考資料(本体工事)

積算で採用した見積等の単価は下表のとおりです。

※見積等項目名が空欄の場合、細別のすべてを含む単価を示しています。見積等項目名を記載している場合は、細別のうち見積を採用した部分の単価を示しています。

工種	種別	細別	規格・条件	見積等項目名	単位	単価(円)	施工費(諸雑費込)等の区分
開削土工	残土処理工 夜間	残土等処分 レキ質土 夜間	運搬車両:ダンプトラック 4t積級		m3	4,050	処分費
電線共同溝工	管路工(管路部) 夜間	管枕 (材料費)	ECVP φ 75		個	462	材料費
		管枕 (材料費)	ホディV管 φ 200		個	826	材料費
	プレキャストボックス工(特殊部) 夜間	プレキャストボックスブロック設置 E1樹 プレハブ基礎 I 型2連一体型 900×1100×3000	4000kgを超え11000kg以下,標準以外,1.225		個	576,600	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E1樹 機器据付ブロック I-100 H=150	1000kg以下,標準以外,1.225		個	64,900	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E3樹 プレハブ基礎 I 型2連一体型 900×1100×3000	4000kgを超え11000kg以下,標準以外,1.225		個	576,600	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E3樹 金蓋取付ブロック I 型 φ880 H=200	1000kg以下,標準以外,1.225		個	89,910	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E3樹 蓋版ブロック I 型 H=200	1000kg以下,標準以外,1.225		個	125,400	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E4樹 プレハブ基礎 II 型タイプ6(歩車共用) 900×1100×1900	1000kgを超え4000kg以下,標準以外,1.225		個	388,900	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E4樹 機器据付ブロック II-100 H=190	1000kg以下,標準以外,1.225		個	87,610	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E6樹 プレハブマンホールA5型 1000×1800×3000	(本体 4分割)1000kgを超え4000kg以下,標準以外,1.225		個	921,400	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E6樹 首座 H=200 一般用	1000kg以下,標準以外,1.225		個	56,600	材工共

見積参考資料(本体工事)

積算で採用した見積等の単価は下表のとおりです。

※見積等項目名が空欄の場合、細別のすべてを含む単価を示しています。見積等項目名を記載している場合は、細別のうち見積を採用した部分の単価を示しています。

工種	種別	細別	規格・条件	見積等項目名	単位	単価(円)	施工費(諸雑費込)等の区分
		プレキャストボックスブロック設置 E8樹 プレハブ基礎 I 型Uタイプ2連 900×1100×3300	(本体 4分割)1000kgを超え4000kg以下,標準以外,1.225,(閉塞版 2枚)1000kg以下,標準以外,1.225		個	1,196,000	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E8樹 機器据付ブロック I-100 H=150	1000kg以下,標準以外,1.225		個	64,900	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E8樹 蓋版ブロック I 型 H=200	1000kg以下,標準以外,1.225		個	125,400	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E9樹 H-8032型 800W×2900L×1800H 車道用φ700(偏芯)	レジンコンクリート製ハンドホール,4000kgを超え11000kg以下,標準以外,1.225		個	2,660,000	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 E9樹 レジン製リング φ700×φ1050×50H	1000kg以下,標準以外,1.225		個	58,600	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 RT1樹 H-1222型 1200W*2200L*1500H 歩道用φ700	レジンコンクリート製ハンドホール,1000kgを超え4000kg以下,標準以外,1.225		個	732,900	材工共
		プレキャストボックスブロック設置 RT1樹 セメント製リング φ700*φ1050*100H	1000kg以下,標準以外,1.225		個	49,800	材工共
		RT1樹用 小型接着剤 (材料費)			個	7,900	材料費
		RT1樹用 2号梯子 (材料費)	SS400・L=1800		脚	65,800	材料費
		プレキャストボックスブロック設置 信号用HH 信号用ハンドホール 870□×1100H 600用会所樹 3段	1000kg以下,標準以外,1.225		個	138,400	材工共
道路付属施設工	残土処理工 夜間	残土等処分 レキ質土 夜間	運搬車両:タンポトラック 4t積級		m3	4,050	処分費
道路土工	残土処理工 夜間	残土等処分 廃路盤材 夜間	廃路盤材(夜間)		m3	7,140	処分費

見積参考資料(本体工事)

積算で採用した見積等の単価は下表のとおりです。

※見積等項目名が空欄の場合、細別のすべてを含む単価を示しています。見積等項目名を記載している場合は、細別のうち見積を採用した部分の単価を示しています。

工種	種別	細別	規格・条件	見積等項目名	単位	単価(円)	施工費(諸雑費込)等の区分
舗装工	舗装打換え工1 夜間・時間的制約有	排水性舗装・表層(車道・路肩部)	2.4m以上,50mm,有,片側1車線,各種(2.00t/m3以上2.10t/m3未満),タックコートPKR(ゴム入),ホーラスAs混合物(13)夜間	導水パイプ 排水性舗装用	m	1,050	材料費
排水構造物工	残土処理工 昼間	残土等処分 小規模	運搬車両:ダンプトラック 4t積級		m3	3,350	処分費
	残土処理工 昼間	残土等処分 現場制約有	運搬車両:ダンプトラック 2t積級		m3	3,350	処分費
道路付属施設工	残土処理工 昼間	残土等処分 小規模	運搬車両:ダンプトラック 4t積級		m3	3,350	処分費
	柵蓋高調整 夜間	電力柵蓋高調整			箇所	307,700	材工共
		通信柵蓋高調整			箇所	247,000	材工共
		HH蓋高調整			箇所	180,800	材工共

見積参考資料(公共関連)

積算で採用した見積等の単価は下表のとおりです。

※見積等項目名が空欄の場合、細別のすべてを含む単価を示しています。見積等項目名を記載している場合は、細別のうち見積を採用した部分の単価を示しています。

[illegible]

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
電線共同溝		式	1				
仮設工		式	1				
土留・仮締切工 夜間		式	1				
軽量鋼矢板設置・撤去 （参考数量）		m	479				（概）
軽量鋼矢板賃料 管路部（参考数量）	軽量鋼矢板型式:LSP1型, H=2.5m, 使用回数:14回, 供用日数:26日, 整備費含む	t	0.8				（概）
軽量鋼矢板賃料 柵部（参考数量）	軽量鋼矢板型式:LSP1型, H=2.5m, 使用回数:10回, 供用日数:18日, 整備費含む	t	1.9				（概）
軽量鋼矢板賃料 試掘部（参考数量）	軽量鋼矢板型式:LSP1型, H=2.5m, 使用回数:10回, 供用日数:18日, 整備費含む	t	1.9				（概）
軽量鋼矢板賃料 照明基礎部（参考数量）	軽量鋼矢板型式:LSP1型, H=2.5m, 使用回数:2回, 供 用日数:4日, 整備費含む	t	0.5				（概）
軽量鋼矢板賃料 柵部（参考数量）	軽量鋼矢板型式:LSP1型, H=3.0m, 使用回数:4回, 供 用日数:8日, 整備費含む	t	1.4				（概）
軽量鋼矢板賃料 試掘部（参考数量）	軽量鋼矢板型式:LSP1型, H=3.0m, 使用回数:4回, 供 用日数:8日, 整備費含む	t	1.4				（概）
軽量鋼矢板賃料 照明基礎部（参考数量）	軽量鋼矢板型式:LSP1型, H=3.0m, 使用回数:6回, 供 用日数:11日, 整備費含む	t	0.6				（概）
軽量鋼矢板賃料 照明基礎部（参考数量）	軽量鋼矢板型式:LSP1型, H=3.5m, 使用回数:5回, 供 用日数:9日, 整備費含む	t	0.7				（概）
支保工（基本料・賃料） 鋼製切梁ポット（参考数量）	調整長:900～1500mm程度, 供用日数:102日	本	6				（概）

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
支保工(基本料・賃料) アルミ腹起し(参考数量)	幅:110~120mm,高さ:120~130mm,長さ:4m程度,供 用日数:102日	本	6				(概)
仮復旧工 夜間		式	1				
表層(歩道部)	1.4m未満(仕上厚50mm以下),30mm,再生密粒度アスコン (13)夜間(2.20t/m3),プライムコート PK-3,全ての費用	m2	450				
表層(車道・路肩部)	1.4m未満(仕上厚50mm以下),50mm,再生粗粒度アスコン (20)夜間(2.35t/m3),プライムコート PK-3,全ての費用	m2	262				
試掘工 夜間		式	1				
舗装版破碎積込(電線共同溝)		m2	100				
運搬(電線共同溝)	アスファルト塊,有り,10.5km以下	m3	3				
殻処分 As塊(掘削)夜間	殻種別:アスファルト殻	m3	3				
床掘り(電線共同溝)		m3	200				
埋戻し・締固め(電線共同溝) 発生土	土砂	m3	200				
表層(歩道部) 舗装仮復旧	1.4m以上,30mm,再生密粒度アスコン(13)夜間(2.20t/m 3),プライムコート PK-3,全ての費用	m2	102				
交通管理工		式	1				
交通誘導警備員	B,昼間	人日	5				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
交通誘導警備員	B, 夜間	人日	300				
舗装版撤去工		式	1				
舗装版破碎工 夜間		式	1				
舗装版切断	舗装版種別:アスファルト舗装版, アスファルト舗装版厚:15cm以下	m	1,600				(概)
舗装版切断	舗装版種別:アスファルト舗装版, アスファルト舗装版厚:15cmを超え30cm以下	m	75				(概)
舗装版破碎積込(電線共同溝工)		m2	710				(概)
運搬(電線共同溝)	アスファルト塊, 有り, 10.5km以下	m3	45				(概)
殻処分 As塊(掘削)夜間	殻種別:アスファルト殻	m3	45				
開削土工		式	1				
掘削工 夜間		式	1				
開削掘削 床掘(電線共同溝)	土質:土砂	m3	960				
埋戻し工 夜間		式	1				
埋戻し・締固め	土質区分:山砂(洗い無, 真砂)75μm通過10%以下, 土質:中埋砂	m3	470				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
埋戻し・締固め	土質区分:発生土, 土質:土砂	m3	180				
埋戻し・締固め	土質区分:RC-40, 土質:土砂	m3	50				
土材料 RC-40 (材料費)		m3	70				
埋戻し・締固め	土質区分:RM-30, 土質:土砂	m3	150				
土材料 RM-30 (材料費)		m3	200				
残土処理工 夜間		式	1				
運搬(電線共同溝)	土砂, 有り, 10.5km以下, 運搬車両:ダンプトラック 4t積級	m3	760				
残土等処分 土質土 夜間	運搬車両:ダンプトラック 4t積級	m3	760				見積参考資料
電線共同溝工		式	1				
管路工(管路部) 夜間		式	1				
埋設管路 電力、直管	材質:ECVP, 径:100mm	m	994				
埋設管路 電力、曲管	材質:ECVP, 径:100mm	m	327				
埋設管路 電力、直管	材質:ECVP, 径:75mm	m	931				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
埋設管路 電力、曲管	材質:ECVP, 径:75mm	m	301				
埋設管路 通信、直管	材質:ECVP, 径:100mm	m	15				
埋設管路 通信、曲管	材質:ECVP, 径:100mm	m	16				
埋設管路 通信、直管 (φ50, φ30), 5本, 2本	材質:ホﾞディ管, 径:200mm	m	316				
埋設管路 通信、曲管 (φ50, φ30), 5本, 2本	材質:ホﾞディ管, 径:200mm	m	47				
埋設管路 通信、直管	材質:共用FA, 径:150mm	m	321				
埋設管路 通信、曲管	材質:共用FA, 径:150mm	m	47				
埋設管路 通信、直管	材質:SUDⅡ-V, 径:100mm	m	1				
埋設管路 通信、曲管	材質:SUDⅡ-V, 径:100mm	m	7				
埋設管路 通信、直管	材質:PV, 径:75mm	m	694				
埋設管路 通信、曲管	材質:PV, 径:75mm	m	407				
埋設管路 通信、直管	材質:PV, 径:50mm	m	572				
埋設管路 通信、曲管	材質:PV, 径:50mm	m	199				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
ロータス管(ホテイ管) (材料費)	φ 200, 起点側	個	5				
ロータス管(ホテイ管) (材料費)	φ 200, 終点側	個	6				
スライト管(ホテイ管) (材料費)	φ 200, 1000mm	個	6				
異種管継手 (材料費)	ECVP75-KGP80	個	2				
導通線 (材料費)	通信用(合繊ロープ 外径4mm)	m	6, 024				
ダクトスリーブ (材料費)	CCVP φ 100	個	69				
ダクトスリーブ (材料費)	CCVP φ 75	個	67				
ダクトスリーブ (材料費)	ホテイ管 φ 200	個	11				
ダクトスリーブ (材料費)	共用FA φ 150	個	11				
ダクトスリーブ (材料費)	SUDⅡ-V管 φ 100	個	2				
ダクトスリーブ (材料費)	PV管 φ 75	個	78				
ダクトスリーブ (材料費)	PV管 φ 50	個	55				
埋設表示シート (材料費)	幅400mm 2倍 水抜穴有ポリエチレンクロス	m	1, 170				

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
管枕 （材料費）	ECVP φ100	個	1,091				
管枕 （材料費）	ECVP φ75	個	975				見積参考資料
管枕 （材料費）	ホテIV管 φ200	個	221				見積参考資料
管枕 （材料費）	フリーアスV管 φ150	個	223				
管枕 （材料費）	SUD II-V管 φ100	個	15				
管枕 （材料費）	PV φ75	個	1,093				
管枕 （材料費）	PV φ50	個	639				
プレキャストボックス工（特殊部） 夜間		式	1				
基礎材 RC-40, t=100mm	基礎材規格（砕石の場合等）：再生クラッシュラン 40～0, 敷厚：7.5cmを超え12.5cm以下	m2	72				
プレキャストボックスブロック設置 E1樹 プレハブ基礎 I型2連一体型 900×1100×3000	4000kgを超え11000kg以下, 標準以外, 1.225	個	1				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E1樹 機器据付ブロック I-100 H=150	1000kg以下, 標準以外, 1.225	個	2				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E3樹 プレハブ基礎 I型2連一体型 900×1100×3000	4000kgを超え11000kg以下, 標準以外, 1.225	個	1				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E3樹 金蓋取付ブロック I型 φ880 H=200	1000kg以下, 標準以外, 1.225	個	1				見積参考資料

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
プレキャストボックスブロック設置 E3樹 蓋版ブロック Ⅰ型 H=200	1000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	1				見積参考資料
蓋設置 E3樹 電力樹鉄蓋(円形)	200kgを超え800kg以下, φ 870歩道用・車道用蓋含む	個	1				
プレキャストボックスブロック設置 E4樹 プレハブ基礎 Ⅱ型タイプ6(歩車共用) 900×1100×1900	1000kgを超え4000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	1				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E4樹 機器据付ブロック Ⅱ-100 H=190	1000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	1				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E6樹 プレハブマンホールA5型 1000×1800×3000	(本体 4分割)1000kgを超え4000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	3				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E6樹 首座 H=200 一般用	1000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	3				見積参考資料
蓋設置 E6樹 電力樹鉄蓋(円形)	200kgを超え800kg以下, φ 870歩道用・車道用蓋含む	個	3				
プレキャストボックスブロック設置 E8樹 プレハブ基礎 Ⅰ型タイプ2連 900×1100×3300	(本体 4分割)1000kgを超え4000kg以下, 標準以外, 1. 225, (閉塞版 2枚) 1000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	1				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E8樹 機器据付ブロック Ⅰ-100 H=150	1000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	3				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E8樹 蓋版ブロック Ⅰ型 H=200	1000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	1				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E9樹 H-8032型 800W×2900L×1800H 車道用 φ 700 (偏芯)	レジンコンクリート製ハットホーﾙ, 4000kgを超え11000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	1				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 E9樹 レジン製リング φ 700×φ 1050×50H	1000kg以下, 標準以外, 1. 225	個	1				見積参考資料
蓋設置 E9樹 電力樹鉄蓋(円形)	200kgを超え800kg以下, φ 700歩道用・車道用蓋含む	個	1				

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
プレキャストボックスブロック設置 RT1柵 H-1222型 1200W*2200L*1500H 歩道用 φ700	レジンコンクリート製ハットホル、1000kgを超え4000kg以下、 標準以外、1.225	個	6				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 RT1柵 セメント製リンク φ700*φ1050*100H	1000kg以下、標準以外、1.225	個	6				見積参考資料
蓋設置 RT1柵 通信柵鉄蓋（円形）	200kg以下、φ700車道用蓋含む	個	6				
RT1柵用 小型接着剤 （材料費）		個	6				見積参考資料
RT1柵用 2号梯子 （材料費）	SS400・L=1800	脚	6				見積参考資料
プレキャストボックスブロック設置 信号用HH 信号用ハットホル 870□×1100H 600用会所柵 3段	1000kg以下、標準以外、1.225	個	6				見積参考資料
蓋設置 HH φ600府警信号用	200kg以下、ハットホル鉄蓋（府警信号用）含む	個	6				
道路付属施設工		式	1				
作業土工 夜間		式	1				
床掘り 小規模 （参考資料）	土砂、上記以外（小規模）、全ての費用	m3	10				
残土処理工 夜間		式	1				
土砂等運搬	小規模、バックホウ山積0.28m3（平積0.2m3）、土砂（岩塊・ 玉石混り土含む）、有り、9.0km以下	m3	10				
残土等処分 軽質土 夜間	運搬車両：ダンプトラック 4t積級	m3	10				見積参考資料

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
照明灯基礎設置工		式	1				
アンカーボルト 照明柱基礎 φ800 昼間	8-M24, L=400, 設置費含む	基	2				(概)
アンカーボルト 照明柱基礎 φ800 昼間	8-M24, L=500, 設置費含む	基	1				(概)
アンカーボルト 照明柱基礎 φ800 昼間	8-M24, L=600, 設置費含む	基	2				(概)
アンカーボルト 照明柱基礎 φ800 昼間	8-M24, L=700, 設置費含む	基	1				(概)
アンカーボルト 照明柱基礎 φ800 昼間	8-M24, L=800, 設置費含む	基	1				(概)
アンカーボルト 照明柱基礎 φ600 昼間	4-M27, L=700, 設置費含む	基	1				(概)
アンカーボルト 照明柱基礎 φ600 昼間	4-M27, L=800, 設置費含む	基	4				(概)
アンカーボルト 照明柱基礎 φ600 昼間	4-M27, L=900, 設置費含む	基	1				(概)
立上管 (材料費)	PV管, 90° 曲管 φ50 (0.5R)	本	38				(概)
立上管 (材料費)	電力用鋼管(ケーブル保護KGP管)ベンﾄﾞ管 φ80×1612 (0.6R)	本	2				(概)
スパイラルタクト(亜鉛引き) (材料費)	φ800×0.8t	m	15				(概)
スパイラルタクト(亜鉛引き) (材料費)	φ600×0.6t	m	15				(概)

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 電線共同溝	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
コンクリート 昼間	無筋・鉄筋構造物、ハック材(クレーン機能付)打設、18-8-40(高炉)、一般養生、全ての費用	m3	12				(概)
基礎砕石 昼間	7.5cmを超え12.5cm以下、再生グラジャラン 40～0、全ての費用	m2	5				(概)
鉄筋工[市場単価] D16, D19 昼間	SD345 D16～25、一般構造物、10t未満、無、無、無、無、補正無(鉄筋割合10%未満含む)、補正無(一般構造物)	t	0.22				(概)
鉄筋工[市場単価] D13 昼間	SD345 D13、一般構造物、10t未満、無、無、無、無、補正無(筋割合10%未満含む)、補正無(一般構造物)	t	0.04				(概)
陸打ち基礎運搬設置費 夜間		基	13				(概)
接地設置 夜間	D種接地、補正あり、連結式接地棒φ10×1500、電線IV3.5sq L=2.0m、電線管VEφ16 L=1.5m含む	極	13				(概)
制御機基礎工 昼間		式	1				
制御機基礎(2連)	コンクリート、型枠、基礎砕石、KGP管ベント管φ80×1612(0.6R)1本、FEPφ100 3.4m、異種管継手、アソビボルト含む	基	1				(概)
接地設置	D種接地、補正あり、連結式接地棒φ10×900、電線IV5.5sq 1.0m含む	極	1				(概)
道路改良		式	1				
道路土工		式	1				
掘削工 夜間		式	1				
掘削 歩道部	土質:土砂、施工方法:上記以外(小規模)、施工数量:小規模(標準)	m3	170				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
残土処理工 夜間		式	1				
廃路盤材運搬	機械積込, 有, 10km以上20km未満	m3	170				
廃路盤材運搬 時間的制約有	機械積込, 有, 10km以上20km未満	m3	350				
残土等処分 廃路盤材 夜間	廃路盤材(夜間)	m3	520				見積参考資料
舗装工		式	1				
舗装打換え工 1 夜間・時間的制約有		式	1				
不陸整正 路床又は路盤の舗装材敷均転圧	1000m2以上, 舗装版のみの打換え, 無	m2	975				
路盤の敷均し転圧 上層路盤	1000m2以上, 舗装版のみの打換え, 1層, 100mm, 路盤材(各種), 0.27, 有, 路盤材:再生粒度調整砕石RM-30	m2	975				
舗装の敷均し転圧 上層路盤	1000m2以上, 舗装版のみの打換え, 各種, 2.35t/m3, 1層, 90mm, 有, 路盤材:再生アスファルト安定処理(25) 夜間	m2	975				
舗装の敷均し転圧 基層	1000m2以上, 舗装版のみの打換え, 各種, 2.35t/m3, 1層, 50mm, 有, 材料:再生粗粒度As混合物(20) 夜間	m2	874				
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	2.4m以上, 50mm, 有, 片側1車線, 各種(2.00t/m3以上2.10t/m3未満), タグコートPKR(コーム入), ポーラスAs混合物(13) 夜間	m2	975				見積参考資料
ブロック舗装工1 夜間		式	1				
フィルター層	フィルター材料:山砂(75μm通過6%以下), 平均厚さ:40mm以上60mm未満	m2	427				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
上層路盤(歩道部)	100mm, 1層施工, 路盤材(各種), 全ての費用, 材料: 再生クワッチャンRC-30	m2	427				
透水シート (材料費)	長繊維(スパンボント不織布), 重量60～65g/m2, 強度1 00N/5cm	m2	427				
インターロッキングﾌﾞﾛｯｸ舗装	直線配置 ﾌﾞﾛｯｸ厚 6cm, 特殊品, 砂(ｸｯｼｮﾝ用)山砂(75μm通過5%以下), 30mm, 100m2以上, 無, 有	m2	427				
ﾌﾞﾛｯｸ舗装工 2 夜間		式	1				
フィルター層	フィルター材料:山砂(75μm通過6%以下), 平均厚さ:40m m以上60mm未満	m2	48				
上層路盤(歩道部)	150mm, 1層施工, 路盤材(各種), 全ての費用, 材料: 再生クワッチャンRC-30	m2	48				
透水シート (材料費)	長繊維(スパンボント不織布), 重量60～65g/m2, 強度1 00N/5cm	m2	48				
インターロッキングﾌﾞﾛｯｸ舗装	直線配置 ﾌﾞﾛｯｸ厚 6cm, 特殊品, 砂(ｸｯｼｮﾝ用)山砂(75μm通過5%以下), 30mm, 100m2以上, 無, 有	m2	48				
ﾌﾞﾛｯｸ舗装工 3 夜間		式	1				
下層路盤(歩道部)	100mm, 1層施工, 再生クワッチャン RC-30, 全ての費用	m2	37				(概)
上層路盤(歩道部)	70mm, 材料:再生As安定処理(25)	m2	37				(概)
インターロッキングﾌﾞﾛｯｸ舗装	直線配置 ﾌﾞﾛｯｸ厚 8cm, 特殊品, 砂(ｸｯｼｮﾝ用)山砂(75μm通過5%以下), 30mm, 100m2以上, 無, 有	m2	37				(概)
視覚障害者誘導用ﾌﾞﾛｯｸ1 夜間		式	1				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
フィルター層	フィルター材料:山砂(75 μ m通過6%以下), 平均厚さ:40mm以上60mm未満	m2	19				(概)
上層路盤(歩道部)	100mm, 1層施工, 路盤材(各種), 全ての費用, 材料:再生クワッシャランRC-30	m2	19				(概)
特殊ブロック舗装 透水性・線状・点状 300×300×t60	設置, 30cm×30cm	m2	19				(概)
視覚障害者誘導用ブロック2 夜間		式	1				
下層路盤(歩道部)	100mm, 1層施工, 再生クワッシャランRC-30, 全ての費用	m2	5				(概)
上層路盤(歩道部)	70mm, 材料:再生As安定処理(25)	m2	5				(概)
特殊ブロック舗装 線状・点状 300×300×t80	設置, 30cm×30cm	m2	5				(概)
排水構造物工		式	1				
作業土工 昼間		式	1				
床掘り 小規模 (参考数量)	土質:土砂	m3	210				
床掘り 現場制約有 (参考数量)	土質:土砂	m3	20				
埋戻し 小規模 (参考数量)	土質区分:土砂, 土質:現場発生土	m3	100				
埋戻し 小規模 (参考数量)	土質区分:土砂, 土質:RC-40	m3	4				

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
土材料 RC-40 (材料費)		m3	5				
埋戻し 小規模 (参考数量)	土質区分:土砂,土質:RM-30	m3	20				
土材料 RM-30 (材料費)		m3	30				
埋戻し 現場制約有 (参考数量)	土質区分:土砂,土質:発生土	m3	3				
埋戻し 現場制約有 (参考数量)	土質区分:土砂,土質:山砂(洗い無,真砂)75μm通過10%以下	m3	7				
土材料 (材料費) (参考数量)	山砂(洗い無,真砂)75μm通過10%以下	m3	8				
残土処理工 昼間		式	1				
土砂等運搬 小規模	小規模,バックホウ山積0.28m3(平積0.2m3),土砂(岩塊・玉石混り土含む),有り,9.0km以下	m3	100				
土砂等運搬 現場制約有	現場制約あり,人力,土砂(岩塊・玉石混り土含む),有り,10.5km以下	m3	10				
残土等処分 小規模	運搬車両:ダンプトラック 4t積級	m3	100				見積参考資料
残土等処分 現場制約有	運搬車両:ダンプトラック 2t積級	m3	10				見積参考資料
側溝工 昼間		式	1				
現場打ち街渠板A	基礎碎石,型枠,コンクリート,目地材設置含む	m	253				(概)

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
現場打ち街渠板B	基礎碎石, 型枠, コンクリート, 目地材設置含む	m	4				(概)
現場打ち街渠板C	基礎碎石, 型枠, コンクリート, 目地材設置含む	m	56				(概)
現場打ち街渠板D	基礎碎石, 型枠, コンクリート, 鉄筋設置含む	m	30				(概)
現場打ち街渠板E	基礎碎石, 型枠, コンクリート, 鉄筋設置含む	m	1				(概)
現場打ち街渠板F	基礎碎石, 型枠, コンクリート, 鉄筋設置含む	m	8				(概)
L型街渠A プレキャストL形側溝(製品長 0.6m/個) 京都市型2号 一般部	据付, 型枠, コンクリート含む	m	297				(概)
L型街渠B プレキャストL形側溝(製品長 0.6m/個) 京都市型2号 切下げ部	据付, 型枠, コンクリート含む	m	4				(概)
L型街渠C 縁塊設置(L型街渠) 乗入れ部	基礎碎石, 型枠, コンクリート, 鉄筋, 2号雨水枡縁塊ブロック(A塊)設置含む	m	33				(概)
L型街渠D プレキャストL形側溝(製品長 0.6m/個) 京都市型2号 段差部	据付, 型枠, コンクリート含む	m	0.6				(概)
管(函)渠型側溝A	据付, 200mm以上300mm以下, 有り, 全ての費用	m	2				(概)
管(函)渠型側溝B	据付, 200mm以上300mm以下, 有り, 全ての費用	m	4				(概)
集水樹・マンホール工 昼間		式	1				
現場打ち街渠樹 A	集水樹・街渠樹種類:現場打材, コンクリート規格:18-8-40(高炉), 法面作業補正:無し	箇所	15				(概)

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
蓋版 現場打ち街渠枳A蓋	据付け、無し、蓋版(各種)、40kg/枚以下、無し、無し、110° 開閉式 ^グ レーチン ^グ 並目	枚	15				(概)
現場打ち街渠枳 B	集水枳・街渠枳種類:現場打材、コンクリート規格:18-8-40(高炉)、法面作業補正:無し	箇所	1				(概)
蓋版 現場打ち街渠枳B蓋	据付け、無し、蓋版(各種)、40kgを超170kg以下、無し、無し、110° 開閉式 ^グ レーチン ^グ 細目	枚	1				(概)
集水枳改修A, B	型枠、コンクリート、鉄筋、削孔含む	箇所	2				(概)
集水枳改修蓋 350用 450×L995 細目 T-2	据付け、無し、蓋版(各種)、40kg/枚以下、無し、無し	箇所	1				(概)
集水枳改修蓋 350用 450×L995 細目 T-25	据付け、無し、蓋版(各種)、40を超え170kg/枚以下、無し、無し	箇所	1				(概)
縁塊設置(第2、3号雨水枳) 雨水枳蓋改修	2号雨水枳縁塊 ^ブ ロック、計上しない	箇所	17				(概)
蓋版 雨水枳蓋改修蓋	据付け、有り、蓋版(各種)京都市雨水枳蓋2号(ハ ^リ ア ^リ タイプ ^ブ)、40kg/枚以下、無し、無し	枚	17				(概)
プレキャスト集水枳	枳規格:スライド ^ブ 枳 S形B-300S同等品以上、材料費・底打ちコンクリート含む	箇所	1				(概)
管渠工 昼間		式	1				
取付管布設及び支管取付工 下水道工事(市場単価)	管径150mm、5箇所以上、時間的制約なし、取付管長3m未満、コンクリート製・陶製以外、可とう性支管を設置しない	箇所	17				(概)
縁石工		式	1				
縁石工 昼間		式	1				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事 (4工区)					事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸA B種 PL-5B 一般部		設置, 各種600mm以下50kg以上100kg未満, 1.65個/m , 再生ｸﾗｯｼｬﾝ RC-40, 18-8-25 (高炉), 有り	m	180				(概)
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸB 市型B種 切下(100) 乗入部		設置, 各種(600mm以下、50kg未満), 1.65個/m, 再生ｸ ﾗｯｼｬﾝ RC-40, 18-8-25 (高炉), 有り	m	49				(概)
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸC B種 PL-5B 段差用 段差部		設置, 各種600mm以下50kg以上100kg未満, 1.65個/m , 再生ｸﾗｯｼｬﾝ RC-40, 18-8-25 (高炉), 有り	m	19				(概)
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸD 市型B種 切下(80) 横断部		設置, 各種(600mm以下、50kg未満), 1.65個/m, 再生ｸ ﾗｯｼｬﾝ RC-40, 18-8-25 (高炉), 有り	m	57				(概)
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸE 市型B種 切下(100) 中車両乗入れ部		設置, 各種(600mm以下、50kg未満), 1.65個/m, 再生ｸ ﾗｯｼｬﾝ RC-40, 18-8-25 (高炉), 有り, 鉄筋含む	m	37				(概)
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸF 市型B種 切下(80) 横断部		設置, 各種(600mm以下、50kg未満), 1.65個/m, 再生ｸ ﾗｯｼｬﾝ RC-40, 18-8-25 (高炉), 有り	m	6				(概)
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸG B種 PL-5B 一般部		設置, 各種600mm以下50kg以上100kg未満, 1.65個/m , 再生ｸﾗｯｼｬﾝ RC-40, 18-8-25 (高炉), 有り	m	0.6				(概)
道路付属施設工			式	1				
作業土工 昼間			式	1				
床堀り 小規模(参考数量)		土砂	m3	1				
埋戻し 小規模(参考数量)		土砂	m3	1				
残土処理工 昼間			式	1				
土砂等運搬 小規模		小規模, ﾊﾞｯｸﾙ山積0.28m3 (平積0.2m3), 土砂(岩塊 ・玉石混り土含む), 有り, 9.0km以下	m3	7				

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
残土処分 小規模	運搬車両：ダンプトラック 4t積級	m3	7				見積参考資料
道路付属施設工 夜間		式	1				
信号・照明柱 A-4/N-2他3基	照明器具取付, LED道路照明灯 (xタイプ 指定色塗装), 道路照明灯建柱含む	基	4				(概)
信号・照明柱 B-5/S-6, B-2/N-4	照明器具取付, LED道路照明灯 (xタイプ 指定色塗装), 道路照明灯建柱含む	基	2				(概)
信号・照明柱 B-6	柱本体材料費及び建柱施工費	基	1				(概)
照明柱 S-4, N-3	照明器具取付, LED道路照明灯 (aタイプ 指定色塗装), 道路照明灯建柱含む	基	2				(概)
自動点滅器取付 連続照明用受光部	受光部, 新設, JIS2型200V用 (6A), EM-CE2sq-3C (L=5 .0m) 含む	個	1				(概)
ケーブル及び電線配線	管内配線, 20mm以下, 新設, 材料費含む	m	374				(概)
路側防護柵工 昼間		式	1				
防護柵(横断・転落防止柵)設置工	プレキャストコンクリートブロック建込, 門型, 3m, 100m未満, 無	m	66				(概)
防護柵(横断・転落防止柵)設置工	プレキャストコンクリートブロック建込, 門型, 2m, 100m未満, 無	m	8				(概)
防護柵(横断・転落防止柵)設置工	プレキャストコンクリートブロック建込, 門型, 1m, 100m未満, 無	m	1.5				(概)
車止め設置	材料:KDK-8SE同等品以上, 基礎設置(コンクリート, 型枠) 含む	本	6				(概)

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
小型標識工		式	1				
標識柱・基礎設置(路側式) 昼間	柱規格:単柱式 経76.3, 柱長さ:板下高2.5m, 施工規模:5基以上	基	1				(概)
標識板設置 (警戒・規制・指示・路線番号標識) 昼間	無, 5基以上, 無, 無	基	1				(概)
標識板設置 (警戒・規制・指示・路線番号標識) 夜間	無, 5基以上, 無, 有	基	6				(概)
添架式標識板取付金具設置 夜間	照明柱・既設標識柱に取付, 無, 有, 有	基	4				(概)
添架式標識板取付金具設置 夜間	照明柱・既設標識柱に取付, 無, 有, 有(加算), 1段数	基	1				(概)
添架式標識板取付金具設置 夜間	照明柱・既設標識柱に取付, 無, 有, 有(加算), 2段数	基	1				(概)
大型標識工		式	1				
標識基礎設置(片持式・門型式) 昼間	型式:片持式の基礎, 基礎規格:4.0m3以上6.0m3未満, 無, 無, 有, アンカーボルト材料費 75.6kg含む	基	1				(概)
標識柱設置(片持式) 夜間	柱型式:F型, 400kg以上, 下地亜鉛メッキ+静電粉体塗装, 955kg/基, 1基, 無, 有	基	1				
標識板設置 夜間 案内標識	移設, 2.0m2以上, 10m2未満, 無, 有	枚	1				(概)
柵蓋高調整 夜間		式	1				
電力柵蓋高調整		箇所	3				見積参考資料

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
通信柵蓋高調整		箇所	5				見積参考資料
HH蓋高調整		箇所	5				見積参考資料
区画線工		式	1				
区画線工 夜間		式	1				
熔融式区画線 実線15cm 白	有, 熔融式手動, 無し, 実線 15cm, 無し, 1.5mm, 有り, 無し, 含有量15～18%, 白, アスファルト舗装, 全ての費用	m	185				(概)
熔融式区画線 実線20cm 黄	有, 熔融式手動, 無し, 実線 20cm, 無し, 1.5mm, 有り, 無し, 含有量15～18%, 黄, アスファルト舗装, 全ての費用	m	68				(概)
熔融式区画線 セグ45cm 白 横断歩道	有, 熔融式手動, 無し, セグ45cm, 無し, 1.5mm, 有り, 無し, 含有量15～18%, 白, アスファルト舗装, 全ての費用	m	130				(概)
熔融式区画線 セグ45cm 白 停止線	有, 熔融式手動, 無し, セグ45cm, 無し, 1.5mm, 有り, 無し, 含有量15～18%, 白, アスファルト舗装, 全ての費用	m	8				(概)
熔融式区画線 矢印・記号・文字 15cm換算 黄 転回禁止（透水As舗装上）	有, 熔融式手動, 無し, 矢印・記号・文字 15cm換算, 無し, 1.5mm, 有, 無し, 含有量15～18%, 黄, アスファルト舗装, 全ての費用	箇所	1				(概) 26.0m/箇所
構造物撤去工		式	1				
舗装版撤去工		式	1				
舗装版切断 夜間	舗装版種別:アスファルト舗装版, アスファルト舗装版厚:15cm以下	m	82				
舗装版切断 昼間	舗装版種別:アスファルト舗装版, アスファルト舗装版厚:15cm以下	m	320				

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
直接掘削積込 t=5cm 夜間・時間的制約有	舗装版のみの打換え, 掘削深さ40cm以下, 有	m2	100				
直接掘削積込 t=7cm 夜間・時間的制約有	舗装版のみの打換え, 掘削深さ40cm以下, 有	m2	980				
舗装版破碎 t=3cm 夜間	アスファルト舗装版, 無し, 必要, 15cm以下, 有り, 全ての費用	m2	430				
舗装版破碎 t=7cm 夜間	アスファルト舗装版, 無し, 必要, 15cm以下, 有り, 全ての費用	m2	130				
舗装版破碎 t=3cm 昼間	アスファルト舗装版, 無し, 必要, 15cm以下, 有り, 全ての費用	m2	300				
舗装版破碎 t=7cm 昼間	アスファルト舗装版, 無し, 必要, 15cm以下, 有り, 全ての費用	m2	440				
舗装版破碎 t=9cm 昼間	アスファルト舗装版, 無し, 必要, 15cm以下, 有り, 全ての費用	m2	8				
構造物取壊し工 昼間		式	1				
コンクリート構造物取壊し	構造物区分: 無筋構造物, 工法区分: 機械施工	m3	51				
コンクリート構造物取壊し	構造物区分: 無筋構造物, 工法区分: 人力施工	m3	16				
排水構造物撤去工 昼間		式	1				
暗渠排水管	撤去, 直管, 50～150mm	m	24				
道路付属施設撤去工		式	1				

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
道路照明灯設置(G型) 夜間	撤去, 照明器具のみ, 持込	基	5				(概)
道路照明灯設置(市街灯) 昼間	撤去, 照明器具のみ	基	1				(概)
防護柵(横断・転落防止柵)撤去工 昼間		m	61				(概)
標識柱・基礎撤去(路側式) 昼間	単柱化(基礎含む), 5基以上, 無, 無	基	2				(概)
標識板撤去 (警戒・規制・指示・路線番号標識) 昼間	無, 5基以上, 無, 無	基	2				(概)
標識板撤去(添架式) 昼間	照明柱・既設標識柱に取付け, 無, 無	基	7				(概)
標識柱撤去 夜間	大型標識, 標識板・標識柱撤去・標識基礎撤去	基	1				(概)
信号設備撤去 後院通坊城通交差点 夜間	西北A	箇所	1				(概)
信号設備撤去 後院通坊城通交差点 夜間	東北B	箇所	1				(概)
信号設備撤去 後院通坊城通交差点 夜間	東C	箇所	1				(概)
信号設備撤去 後院通坊城通交差点 夜間	東南D	箇所	1				(概)
信号設備撤去 後院通坊城通交差点 夜間	西南E	箇所	1				(概)
信号設備撤去 後院通坊城通交差点 夜間	西F	箇所	1				(概)

設計内訳書（本体工事）

工事名	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
信号設備撤去 後院通坊城通交差点 夜間	ケーブル, 架線金物	箇所	1				(概)
運搬処理工		式	1				
殻運搬 As塊(掘削) 昼間	舗装版破碎, 機械積込(小規模土工), 有り, 11.0km以下, 全ての費用	m3	41				
殻処分 As塊(掘削) 昼間	殻種別:アスファルト殻	m3	41				
殻運搬 As塊(掘削) 夜間	舗装版破碎, 機械(対策不要厚15cm超)又は必要, 有り, 12.0km以下, 全ての費用	m3	22				
殻処分 As塊(掘削) 夜間	殻種別:アスファルト殻	m3	22				
殻運搬 As塊(掘削) 夜間・時間的制約有	舗装版破碎, 機械(対策不要厚15cm超)又は必要, 有り, 12.0km以下, 全ての費用	m3	74				
殻処分 As塊(掘削) 夜間 夜間・時間的制約有	殻種別:アスファルト殻	m3	74				
殻運搬 Co塊(無筋) 昼間	コンクリート(無筋)構造物とりこわし, 機械積込, 有り, 28.4km以下, 全ての費用	m3	52				
殻処分 Co塊(無筋) 昼間	殻種別:コンクリート殻(無筋)	m3	52				
殻運搬 人力積込, Co塊(無筋) 昼間	コンクリート(無筋)構造物とりこわし, 有り, 10km以上20km未満	m3	16				
殻処分 Co塊(無筋) 昼間	殻種別:コンクリート殻(無筋)	m3	16				
現場発生品積込・荷卸 昼間	クレーン装置付2t積, 吊能力2.9t	t	2.53				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
現場発生産品運搬 昼間	クレーン装置付2t積, 吊能力2.9t, 有り, 5.0km以下, 発生材種類:スクラップ	t	2.53				
スクラップ 控除	ヘビ°-H1	t	-0.96				
スクラップ 控除	ヘビ°-H2	t	-1.57				
仮設工		式	1				
仮復旧工 昼間		式	1				
表層(歩道部)	1.4m未満(仕上厚50mm以下), 30mm, 再生密粒度アスコン(13) (2.20t/m3), プライムコート PK-3, 全ての費用	m2	448				
埋戻し 小規模(参考数量)	上記以外(小規模), 土砂, 全ての費用	m3	70				
土材料 RC-40		m3	90				
表層(車道・路肩部)	1.4m未満(仕上厚50mm以下), 50mm, 再生粗粒度アスコン(20) (2.35t/m3), プライムコート PK-3, 全ての費用	m2	230				
路肩仮舗装 夜間		式	1				
埋戻し 小規模(参考数量)	上記以外(小規模), 土砂, 全ての費用	m3	10				
土材料 RC-30		m3	10				
表層(車道・路肩部)	1.4m未満(仕上厚50mm以下), 50mm, 再生粗粒度アスコン(20) 夜間 (2.35t/m3), プライムコート PK-3, 全ての費用	m2	181				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
交通管理工		式	1				
交通誘導警備員 昼間	B	人日	150				
交通誘導警備員 夜間	B	人日	100				
概略発注工		式	1				
概略発注工		式	1				
概略発注工		式	1				
概略発注工 設計内訳書の区分別の概略発注工 を除く直工の31.6%以内		式	1				(概)を参照
直接工事費		式	1				
共通仮設		式	1				
共通仮設費		式	1				
運搬費		式	1				
仮設材運搬費 往復	関東・中部・近畿, 2.7km, 12m以内, 各種(実数入力), 0. 無, 積込み・取卸し含む	t	9.4				
現場環境改善費		式	1				

設計内訳書（本体工事）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	共同溝・電線共同溝 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
現場環境改善費（率計上）		式	1				
共通仮設費（率計上）		式	1				
純工事費		式	1				
現場管理費		式	1				
工事原価		式	1				
一般管理費等		式	1				
工事価格		式	1				
消費税額及び地方消費税額		式	1				
工事費計		式	1				

設計内訳書（公共関連）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	道路新設・改築 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
道路改良		式	1				
舗装工		式	1				
既設路面すりつけ舗装 夜間		式	1				
不陸整正	補充材の有無:無し	m2	111				(概)
上層路盤(車道・路肩部)	再生粒度調整砕石 RM-30, 50mm, 1層施工, 全ての費用	m2	111				(概)
基層(車道・路肩部)	3.0m超, 50mm, 再生粗粒度アスコン(20)夜間, プライムコート PK-3, 全ての費用	m2	111				(概)
表層(車道・路肩部)	3.0m超, 50mm, 再生密粒度アスコン(13)夜間, タックコート PK-4, 全ての費用	m2	111				(概)
舗装復旧工 夜間		式	1				
不陸整正	有り, 28mm以上34mm未満, 再生粒度調整砕石 RM-30, 全ての費用	m2	581				(概)
不陸整正	補充材の有無:無し	m2	104				(概)
基層(車道・路肩部)	3.0m超, 50mm, 再生粗粒度アスコン(20)夜間, プライムコート PK-3, 全ての費用	m2	685				(概)
表層(車道・路肩部)	3.0m超, 50mm, 再生密粒度アスコン(13)夜間, タックコート PK-4, 全ての費用	m2	685				(概)
舗装版撤去工 夜間		式	1				

設計内訳書（公共関連）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	道路新設・改築 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
掘削	t=40, 土砂, 小規模(標準以外)	m3	4				(概)
舗装版切断	舗装版種別:アスファルト舗装版, アスファルト舗装版厚:15cm以下	m	34				(概)
舗装版破碎	アスファルト舗装版, 無し, 必要, 15cm以下, 有り, 全ての費用	m2	690				(概)
運搬処理工 夜間		式	1				
殻運搬	殻種別:アスファルト殻	m3	58				(概)
殻処分 As塊(掘削)夜間		m3	58				
廃路盤材運搬	機械積込, 有, 10km以上20km未満	m3	4				(概)
残土等処分 廃路盤材 夜間	廃路盤材(夜間)	m3	4				見積参考資料
区画線工		式	1				
区画線工 昼間		式	1				
熔融式区画線 実線15cm 白	無し, 熔融式手動, 無し, 実線 15cm, 無し, 1.5mm, 無し, 無し, 含有量15~18%, 白, アスファルト舗装, 全ての費用	m	190				(概)
熔融式区画線 実線20cm ベージュ	無し, 熔融式手動, 無し, 実線 20cm, 無し, 1.5mm, 無し, 無し, 含有量15~18%, 各種, アスファルト舗装, 全ての費用	m	190				(概)
熔融式区画線 セアラ45cm 白 停止線	無し, 熔融式手動, 無し, セアラ 45cm, 無し, 1.5mm, 無し, 無し, 含有量15~18%, 白, アスファルト舗装, 全ての費用	m	7				(概)

設計内訳書（公共関連）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）				事業区分 工事区分	道路新設・改築 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
矢羽根 生活道路	600×720, 密粒度As	箇所	5				(概)
自転車マーク 生活道路	600×600	箇所	7				(概)
仮設工		式	1				
仮区画線工 既設路面すりつけ舗装部 夜間		式	1				
仮区画線 実線15cm 白	施工方法区分:溶融式手動, 規格・仕様区分:実線 1 5cm, 塗布厚:厚1.5mm, 排水性舗装:無し	m	26				(概)
仮区画線 実線20cm 黄	施工方法区分:溶融式手動, 規格・仕様区分:実線 2 0cm, 塗布厚:厚1.5mm, 排水性舗装:無し	m	13				(概)
交通管理工		式	1				
交通誘導警備員 昼間	B	人日	2				(概)
交通誘導警備員 夜間	B	人日	28				(概)
道路付属施設工		式	1				
信号設備工 夜間		式	1				
信号設備設置工 後院通坊城通交差点	西北A	箇所	1				(概)
信号設備設置工 後院通坊城通交差点	東北B	箇所	1				(概)

設計内訳書（公共関連）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	道路新設・改築 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
信号設備設置工 後院通坊城通交差点	東C	箇所	1				(概)
信号設備設置工 後院通坊城通交差点	東南D	箇所	1				(概)
信号設備設置工 後院通坊城通交差点	西南E	箇所	1				(概)
信号設備設置工 後院通坊城通交差点	西F	箇所	1				(概)
信号設備工 後院通坊城通交差点	地中及びシステム柱ケーブル	箇所	1				(概)
概略発注工		式	1				
概略発注工		式	1				
概略発注工		式	1				
概略発注工 設計内訳書の区分別の概略発注工 を除く直工の5958.0%以内		式	1				(概)を参照
直接工事費		式	1				
共通仮設		式	1				
共通仮設費		式	1				
現場環境改善費		式	1				

設計内訳書（公共関連）

工事名	(総合評価) 後院通電線共同溝及び道路改良工事（4工区）				事業区分 工事区分	道路新設・改築 道路改良	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
現場環境改善費（率計上）		式	1				
共通仮設費（率計上）		式	1				
純工事費		式	1				
現場管理費		式	1				
工事原価		式	1				
一般管理費等		式	1				
工事価格		式	1				
消費税額及び地方消費税額		式	1				
工事費計		式	1				

特記仕様書（個別工事編）

工事名 （総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（４工区）

工事場所 京都市中京区壬生朱雀町他地内

1 一般事項

第１条（適用）

本工事の施工に当たっては、「設計図書」によるほか、土木請負工事必携（以下「請負工事必携」という。）（令和７年８月京都市）」及び「特記仕様書（全工事共通編）（令和７年８月）」によらなければならない。

なお、本工事施工現場には、必ず請負工事必携、特記仕様書（全工事共通編）及び本特記仕様書を常備しなければならない。

※ 京都市情報館「トップページ」⇒「まちづくり」⇒「技術管理」⇒「監督・検査」⇒「工事（土木、舗装、樹木等）の仕様書、様式等」参照

請負工事必携・特記仕様書（全工事共通編）

(<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000292439.html>)

第２条（受注者希望方式による「完全週休２日（土日）」又は「月単位の週休２日」の実施）

- 1 本工事は「京都市建設局週休２日工事」の対象（受注者希望方式による「完全週休２日（土日）」又は「月単位の週休２日」）であり、「京都市建設局週休２日工事実施要領」(<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000322908.html>)に基づいて実施する。ただし、「通期の週休２日」は必須である。
- 2 受注者は、契約後すみやかに、「完全週休２日（土日）」又は「月単位の週休２日」の実施を希望するか否かを、発注者と協議し、その内容を工事打合せ簿に記録すること。また、施工計画書の作成に当たっては、「完全週休２日（土日）」又は「月単位の週休２日」の実施内容を反映させること。
- 3 「完全週休２日（土日）」又は「月単位の週休２日」を達成した場合は、工事成績評価の考査項目「創意工夫」において、加点対象となる。
- 4 受注者は、本市が週休２日の推進を目的に受注者に対して実施する「京都市建設局週休２日工事」に関するアンケート調査やヒアリング調査に、随時協力しなければならない。
- 5 工事標示板に「京都市建設局週休２日工事」である旨を明示すること（様式不問）。

第３条（受注者希望方式による「建設キャリアアップシステム活用モデル工事」の実施）

- 1 本工事は「京都市建設局建設キャリアアップシステム活用モデル工事」の対象（ただし、受注者希望方式）であり、「京都市建設局建設キャリアアップシステム活用モデル工事試行要領」(<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000338803.html>)に基づいて実施する。
- 2 受注者は、契約後速やかに、建設キャリアアップシステムの活用を希望するか否かを、発注者へ通知し、その内容を工事打合せ簿に記録すること。
- 3 建設キャリアアップシステムの履行状況を確認できた場合は、工事成績評価の考査項目「創意工夫」において、加点対象となる。

第4条（前払金）

- 1 前払金は、各会計年度の出来高予定額の40%以内とし、中間前払金は、同様に20%以内とする。
なお、前払金保証（中間前払金保証を含む。）について、電子証書の提出を可能とする。

※ 京都市入札情報館ホームページ「契約保証及び前払金保証に係る保証証書の電子化への対応について」参照（<https://www2.city.kyoto.lg.jp/rizai/chodo/info/pdf/2023/shoushodenshika.pdf>）

- 2 各会計年度における請負代金の支払限度額及び出来高予定額の割合は、概ね次のとおりとする。

（本体工事）		（公共関連）	
支払限度額の割合		支払限度額の割合	
令和7年度	0.0%	令和7年度	0.0%
令和8年度	45.0%	令和8年度	69.2%
令和9年度	55.0%	令和9年度	30.8%
出来高予定額の割合		出来高予定額の割合	
令和7年度	0.0%	令和7年度	0.0%
令和8年度	50.0%	令和8年度	76.9%
令和9年度	50.0%	令和9年度	23.1%

※ 各会計年度の請負代金の支払限度額及び出来高予定額は、契約書作成時に通知する。

2 現場条件に関する事項

第1条（施工時間）

施工は、設計書に示すように昼間施工、夜間施工、夜間・時間的制約有の施工区分を設定している。

それぞれの施工区分については、設計書の種別または細別の行に記載しており、種別に記載されている場合は、以下細別全てが記載の施工区分とし、種別に施工区分の記載がない場合は細別に施工区分を記載している。

それぞれの標準的な作業時間帯は、（昼間）9時～18時、（夜間）21時～6時、（夜間・時間的制約有）23時～6時とする。ただし、関係機関等と協議の結果、施工時間に変更が生じた場合は、設計図書に関して監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

なお、本設計書における夜間・時間的制約有の労務費調整係数は、1.71とし積算している。

第2条（工事規制）

本工事施工箇所は、京都市道路工事調整会規約施行細則第17条に掲げる工事規制のうち、次の各号の規制種別に係る規制路線及び地域内であることから、同条に基づく規制期間及び規制内容を遵守しなければならない。なお、規制範囲は歩車道を含めた全幅とする。

京都市道路工事調整会規約施行細則

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000003649.html>

(1) 年末年始規制

(2) 観光規制

規制種別	規制路線及び地域	規制期間	規制内容
年末年始規制	幹線道路	12月20日～1月5日	規制期間中は、新たな工事に着手し、又は工事区域を拡大してはならない。ただし、道路の仮復旧等、一般交通に開放するための工事はこの限りでない。
観光規制	観光路線及び観光地域	4月1日～5月15日 10月の最終土曜日 ～11月の最終日曜日（ただし、 12月1日が土曜・日曜の場合は 12月最初の日曜日まで）	規制期間中は、原則として工事を中止すること

第3条（支障物件等）

本工事に関連する工事及び支障移設に関する工事は下表のとおりである。受注者は各企業との連絡を十分行うこと。

また、小型標識工における標識柱、標識板について、設置位置等を所轄警察署と協議したうえで、実施する。その協議結果により、数量及び添加架方法等に変更があった場合については、設計変更の対象とする。

番号	工事名	実施者	企業者との協議	工事時期（予定）	その他
1	公共下水道管布設替工事(仮称)	上下水道局	協議中	協議中	支障移設
2	配水管布設替工事(仮称)	上下水道局	協議中	協議中	支障移設
3	ガス支障移設工事(仮称)	大阪ガスネットワーク	協議中	協議中	支障移設
4	（総合評価）後院通道路改良工事（2工区）	公成・日新JV	済	令和7年9月頃から	関連工事
5	後院通引込管路等工事委託【2工区】	NTTインフラネット	済	令和7年9月頃から	関連工事
6	（総合評価）後院通電線共同溝及び道路改良工事（3工区）	公成建設	済	令和6年10月頃から	関連工事
7	後院通引込管路等工事委託【3工区】	未定	未	協議中	関連工事
8	後院通引込管路等工事委託【4工区】	未定	未	協議中	関連工事

上表番号1及び2の工事については、上下水道局より本工事契約者に随意契約を依頼することが予定されている。

なお、上表番号1及び2の概算工事概要は以下のとおり。

【番号1】

工事概要：下水管布設替工 VPφ250～600 L=250m

【番号2】

工事概要：配水管布設 φ150 L=320m

第4条（交通誘導警備員）

交通誘導警備員については、下表のとおり計上しているが、道路管理者及び所轄警察署等の打合せの結果、又は条件変更等に伴い員数に増減が生じた場合は、設計図書に関して監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

配 置 場 所	交通誘導警備員 (1日当たりの編成人数)	編 成	昼間・夜間・ 24時間の別	交替要員 の有無
規制箇所	2～6名（交代要員を含まない。）	交通誘導警備員B 2～6名	昼 間	無
規制箇所	2～6名（交代要員を含まない。）	交通誘導警備員B 2～6名	夜 間	無

3 監督職員の確認に関する事項

第1条（現場中間検査）

- 1 本工事は、現場中間検査の対象工事とし、実施回数は1回以上とする。
- 2 検査の対象工種及び実施時期は、完成、既済の検査時期及び当該工事の主要工種並びに施工上の重要な変化点である段階確認の実施時期等を考慮し、監督職員と協議のうえ、定めるものとする。
- 3 現場中間検査の検査日時等については、受注者の意見を聞いて監督職員が通知するものとする。
- 4 現場中間検査に要する費用は受注者の負担とする。

第2条（材料確認）

受注者は、次表の材料・資材・製品について、監督職員が臨場のうえ、材料確認を受けるものとする。
また、あらかじめ施工計画書に材料等の名称・規格等を記載すること。

受注者は、監督職員が材料確認のために臨場した際、当該材料等の製造者が発行する品質を証明する資料（見本を含む）との照合、搬入された材料等の外観（角欠け、ひび割れ等）、形状、寸法及び数量等の確認を受けなければならない。

ただし、監督職員の確認が机上となる場合、受注者は、当該材料等の外観、形状、寸法（幅、長さ、高さ）及び搬入数量等が判別できる写真記録等の資料（納品書、納品伝票も可）を監督職員に提出し、その確認を受けなければならない。

なお、受注者は監督職員の確認を得ずに、当該材料等を使用して工事を実施してはならない。

土木工事施工管理基準「品質管理基準及び規格値」に基づき実施する製品及び材料

材 料・製 品	備 考
プレキャストコンクリート製品 (JIS I類、JIS II類含む)	「品質管理基準及び規格値」 (区分・項目・方法・頻度)

監督職員の指定に基づき実施する材料・資材及び製品
(「品質管理基準及び規格値」に基づき実施する製品及び材料以外)

工種・種別等	細 別	材料・資材・製品
管路工（管路部）	埋設管路	ECVP 管
		VP 管（SUD II-V 管）
		PV 管
		ボデー管
		共用 FA 管
プレキャストボックス工(特殊部)	プレキャストボックス	・ E 枘 ・ RT 枘
	蓋	・ 信号用ハンドホール
照明灯基礎設置工	アンカーボルト	8-M24 各種
		4-M27 各種
舗装工	ブロック舗装工	インターロッキングブロック
排水構造物工	側溝工	プレキャスト L 形側溝
		管(函)渠型側溝
	集水枘・マンホール工	プレキャスト集水枘
道路付属施設工	照明工	照明柱

第 3 条（受注者の臨場）

監督職員が行う段階確認においては、主任技術者（又は監理技術者、或いは監理技術者補佐）又は現場代理人、若しくは、予め監督職員の承諾を得た者が臨場のうえ、確認を受けなければならない。

第 4 条（段階確認）

受注者は、共通仕様書（3-1-1-4）の「表 3-1-1 段階確認一覧表」に示す各種別、「品質管理基準及び規格値」による段階確認項目及び次表の工種・種別等の施工段階において、監督職員が臨場のうえ段階確認を受けるものとする。また、あらかじめ施工計画書に確認内容を記載すること。

ただし、監督職員による確認が机上となる場合、受注者は、施工状況、出来形、品質、不可視部分等の判別ができる施工管理記録（出来形成果表、設計図面との対比図、品質管理記録等）と写真等の資料を監督職員に提出し、その確認を受けなければならない。

なお、受注者は監督職員の確認を得ずに、当該工種以降の作業を実施してはならない。

「共通仕様書（3-1-1-4）の「表 3-1-1 段階確認一覧表」に基づき実施する段階確認

工種・種別等	細 別	確 認 時 期
舗装工	上層路盤	プルーフローリング実施時

監督職員の指定に基づき実施する段階確認（「品質管理基準及び規格値」による段階確認項目含む）
（共通仕様書（3-1-1-4）の「表 3-1-1 段階確認一覧表」に基づき実施する段階確認以外）

工種-種別等	確 認 項 目
管路工(管路部)	管路部掘削完了時、埋戻し状況、管路完成後、導通試験
プレキャストボックス工(特殊部)	特殊部掘削完了時、埋戻し状況

第5条（立会確認）

受注者は、次表に示す内容について、監督職員と現地で立会を行い、確認するものとし、監督職員が確認するまでは次の作業に進んではない。

項 目	確 認 方 法・目 的 等
保安施設設置状況	工事による事故防止のため、監督職員と立会確認をする (ただし、立会確認書は必要としない。)
工事箇所の境界確認	本工事箇所に隣接して、第三者の所有する土地があることから、工事箇所の境界について、工事着手前に事前測量を実施し、監督職員に報告すること(ただし、立会確認書は必要としない。)

第6条（品質管理試験）

本工事の施工に伴う品質管理試験の項目や規格値等については、土木工事施工管理基準（品質管理基準及び規格値）に記載しているとおりである。

第7条（既済部分検査等）

本工事における契約書第41条（部分引渡し）に定める「指定部分」は以下のとおりとする。

なお、不測の事態等が生じた場合、指定部分及び引渡日は、督職員と協議のうえ変更することができるものとする。

指定部分	引渡日
プレキャストボックス工（特殊部） (ただし、信号用 HH のボックスと蓋は除く)	令和9年3月31日

4 建設副産物に関する事項

第1条（建設副産物の適正処理）

1 建設廃棄物が発生する場合の対応

本工事の施工により発生する建設廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の許可を受けた施設へ搬出するものとする。

なお、下表は積算上の条件明示であることから施設を指定するものではなく、監督職員の承諾を得て搬出先の変更を行うことができるが、原則として設計変更の対象としない。

また、産業廃棄物が発生する場合は「京都市産業廃棄物の不適正な処理の防止等に関する条例」（最終改正平成23年4月1日）を遵守すること。

特に、マニフェストを発行して産業廃棄物が適正に処理されたことを確認すること。このとき、受注者が排出業者であることとして保管の義務のある A、B 2、D、E 票については、その原本を監督職員へ提示すること。

<産業廃棄物>

建設副産物	受入場所	備 考
コンクリート塊(無筋) (10tD)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 14 条第 6 項の許可を受けた施設 京都府綴喜郡井手町井手久保 48-1	設計運搬距離 L = 28.1km
コンクリート塊(無筋) (2tD)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 14 条第 6 項の許可を受けた施設 京都府亀岡市篠町王子桜木 22-4	設計運搬距離 L = 15.0km
アスファルト塊(掘削)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 14 条第 6 項の許可を受けた施設 京都府京都市伏見区横大路千両松町 78	設計運搬距離 L = 10.3km
廃路盤材	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 14 条第 6 項の許可を受けた施設 京都府京都市伏見区横大路千両松町 78	設計運搬距離 L = 10.3km

2 舗装切断時等において発生する濁水及び粉塵

受注者は、舗装切断時等において発生する濁水を回収し、産業廃棄物（汚泥）として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理しなければならない。

また、受注者は、濁水が生じない工法（空冷式等）を採用した場合も、濁水と同様に、吸引する装置の併用など、粉塵飛散防止対策を実施するとともに、収集した粉塵については、産業廃棄物として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理しなければならない。

当初設計には濁水及び粉塵の収集運搬及び処分に掛かる費用は計上していない。濁水処理費等が必要な場合は、設計変更の対象とする。

3 建設発生土が発生する場合の対応（指定地処分）

受入地が発行する書類、伝票などの写しを監督職員に随時提出するとともに、その原本との照合による確認を検査時まで監督職員に受けるものとする。

なお、建設発生土の搬出に当たり、仮置きが必要な場合は、沿道環境に配慮した搬出計画を立てるものとし、書面等により事前に監督職員の確認を受けること。

原則、下表に示す受入先へ搬出するものとするが、土質性状や搬入時期等により搬出できない場合は、監督職員と協議のうえ、その指示によるものとする。

ただし、実施日において、公共工事間で流用可能な場合は、工事間流用を最優先するものとし、設計変更の対象とする。

<建設発生土>

建設副産物	受入場所	備 考
建設発生土	(指定地処分) 豊坂建材株式会社 京都府京都市西京区榎原芋峠 60-3	設計運搬距離 L = 8.4km

本工事では土壌調査費等を計上していないが、建設発生土について、以下の事項のいずれかに該当する場合は土壌調査が必要となる。その場合は、設計変更の対象とする。

- (1) 指定している受入場所がある地方公共団体の関係法令に基づく土地の埋立等の許可を得た事業者である場合
- (2) 本工事の土砂等の性状（色、臭い等）や廃棄物の混入等の状況が埋立基準に適合しないおそれがある場合
- (3) 上記の(1)(2)以外に土壌調査が必要となった場合

なお、土壌調査を実施することとなる場合は、建設発生土の搬出前に土壌調査を実施し、以下の資料を監督職員に提出すること。

- (1) 土壌分析結果証明書（計量法第122条第1項の規定により登録された計量士のうち、濃度に係る計量士が発行した土壌の分析結果を証する書類（測定方法を明示したもの））
- (2) (1)の試料を採取した地点を示す図面及び当該地点の写真

4 建設発生土の受入地の変更

土質性状や搬入時期等により指定する受入地に搬出ができない場合、監督職員は京都市土木積算システム設計単価第5編及び公共物GISに掲載している他の施設の中から積算上の2番目以降の受入地（以下、「積算受入地」という。）を順次指定し、受注者は搬出の可否を確認するものとする。

積算受入地への建設発生土の搬出について、監督職員と協議のうえ決定するものとし、設計変更の対象とする。

なお、受注者は、積算受入地に代えて、京都市土木積算システム設計単価第5編及び公共物GISに掲載している他の施設、又は廃棄物の処理及び清掃に関する法律の許可を受けた施設の中から別の受入地（以下、「提案受入地」という。）を提案することができる。

提案受入地への建設発生土の搬出が適正であると認められる場合はこれを妨げないが、設計変更の対象としない。また、提案受入地での処分に掛かる費用が、積算受入地での処分に掛かる費用を下回る場合は、減額の設計変更を行うものとする。

5 スクラップについて

本工事の施工により発生するスクラップは、下表の条件で積算している。

なお、搬出先は必要な許可を有するものとし、その証明書の写し（搬出先を変更したときのみ）と処分量を明記した証明書（受入確認書等）を監督職員に提出すること。

建設副産物	受入場所	備 考
スクラップ (ヘビーH1・H2)	京都市上京区上鳥羽鉾立町4	設計運搬距離 L = 4.9 km

第2条（特定建設資材の分別解体等及び再資源化等）

- (1) 本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(最終改定令和7年6月1日)(以下「建設リサイクル法」という。)に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等及び再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「6 解体工事に要する費用等」に定める事項は、契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上明示した以下の事項と別

の方法であった場合でも設計変更の対象としない。ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工 程	作業内容	分別解体等の方法
	①仮設	仮設工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	③基礎工(杭基礎等)	基礎工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	⑥その他()	その他の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用

※ 特定建設資材廃棄物を排出する場合、再資源化施設等の所在地については、本特記仕様書前項に示す「建設副産物の適正処理について」に記載のとおりとする。

(2) 受注者は、特定建設資材の分別解体等及び再生資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を別に定める18条様式に記載し、監督職員に報告すること。

- ・再資源化等が完了した年月日
- ・再資源化等をした施設の名称及び所在地
- ・再資源化等に要した費用

なお、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を提出した場合、18条に基づく報告を省略することができるものとする。

5 その他事項

第1条（工事書類の提出）

完成検査の受検に向けた出来形図書については、工期末の1.5か月前までに提出すること。また、完成検査に必要な工事書類については、工期末の2週間前までに提出すること。

第2条（受注者希望型におけるICT活用工事の試行）

1 本工事は、「京都市建設局ICT活用工事試行方針（案）」（令和7年8月）（以下「試行方針」という。）及び「京都市建設局ICT活用工事試行要領（案）」（令和7年8月）（以下「試行要領」という。）の内容に従いICT活用工事を試行できる。

※ 京都市情報館「トップページ」⇒「まちづくり」⇒「技術管理」⇒「高度情報化」参照
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000290097.html>

- 2 試行の対象工種は「試行方針」に定めた工種とし、「試行要領」の対象工種の詳細に基づき、I C T活用工事を試行できる。
- 3 受注者が試行を希望する場合、契約後施工計画書の提出までに、受注者はI C T活用の効果、具体的な工事内容・数量及び対象範囲について、発注者へ提案、協議を行うこと。発注者と協議が整った施工プロセス①～⑤の全て又は何れかの段階で、I C T施工技術を活用できる。
 なお、試行の対象工種が土工、舗装工、舗装工（修繕工）の場合は、施工プロセス①、②、③又は②、④、⑤を含む3つ以上の施工プロセスの活用を基本とし、その他のプロセスを含め協議により選定できる。
 - ① 3次元起工測量
 - ② 3次元設計データ作成
 - ③ I C T建設機械による施工
 - ④ 3次元出来形管理等の施工管理
 - ⑤ 3次元データの納品
- 4 I C T活用工事の費用については、当初は計上せず、発注者との協議が整った各施工プロセスの段階を設計変更で必要な経費を計上する。受注者は設計変更に必要な見積書を提出すること。
- 5 「試行要領」により有効に試行したことが認められた場合は、工事成績の「創意工夫」及び「工事特性」の項目で加点評価する。ただし、①3次元起工測量の1プロセスのみの活用は除く。

第3条（京都市建設局検査書類限定型工事の検査の試行）

- 1 本工事は、「京都市建設局検査書類限定型工事の検査試行要領」（令和7年7月）に基づく対象工事として、検査を試行することができる。

※ 京都市情報館「トップページ」⇒「まちづくり」⇒「技術管理」⇒「監督・検査」⇒「工事（土木、舗装、樹木等）の仕様書、様式等」参照
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000343988.html>

- 2 工事の書類検査は、検査時（完成・既済部分・中間）において、下記の8分類に限定して行うことを原則とする。

①施工体制	⑤出来形図書
②施工計画	⑥打合せ簿
③工事材料資料の確認及び 品質規格証明書類	⑦工事写真
④品質管理	⑧電子納品

※1)上記8分類以外の書類も、従来どおり全て監督職員へ提出すること。

※2)検査時に、限定型工事の検査対象書類のみを抜粋するといった、取りまとめを行う必要はない。

※3)以下の工事は書類限定検査の対象外とする。

- ・低入札価格調査の対象となった工事
- ・当該工事で法令遵守等に係る減点対象行為があった場合
 （工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表参照）

- 3 検査職員が追加書類を求める場合は、上記8分類以外の追加書類の提出を併せて受注者に通知する。
- 4 実地検査（現場）においては、出来形を確認できる資料を準備すること。

- 5 実施状況や改善点等を把握するためのアンケート調査がある場合には協力すること。

第4条（情報共有システムの利用）

- 1 本工事は、情報共有システム（以下「システム」という。）の利用対象とする。
システムの利用に当たっては、「京都市建設局情報共有システム活用ガイドライン（令和6年3月）（※）」（以下「ガイドライン」という。）を遵守するものとし、ガイドラインの内容を十分に確認したうえで事前協議を行うこと。
- 2 利用するシステムは、ガイドラインで定める要件を満たすシステムの中から、受注者が選定すること。
- 3 システムの利用に係る費用は共通仮設費率分に含まれており、システム提供者との契約や利用に係る手続等は受注者が行うものとする。
- 4 システムで発議・提出・受理などの処理を行った工事帳票は、「京都市建設局電子納品実施要領」（以下「要領」という。）に基づき作成された仕様の電子データで出力し納品すること。
なお、要領は適宜改正されることから、適宜、京都市情報館を確認すること。

※ 京都市情報館「トップページ」⇒「まちづくり」⇒「技術管理」参照
(<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000280681.html>)

第5条（発注者指定型における遠隔臨場の実施）

本工事は遠隔臨場を行うものとする。

- 1 目的
本工事は、「建設現場の遠隔臨場に関する実施要領（案）」（令和5年3月）及び「建設現場における遠隔臨場に関する監督・検査実施要領（案）」（令和5年3月）の内容に従い実施するものとする。
- 2 実施内容
 - (1) 「段階確認」、「材料確認」及び「立会」の実施
 - ア 受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により撮影する映像と音声を監督職員へWeb会議システム等を使用し、双方向の通信により会話しながら確認する。実施内容については、受発注者間の協議により決定するものとする。
 - イ 遠隔臨場に使用する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の資機材は受注者が準備するものとする。ウェアラブルカメラ等の資機材は、使用製品を限定するものではなく、一般的なAndroidやi-Phone等のモバイル端末を使用することも可能である。ただし、監督職員が使用するパソコン等の機器・ネットワーク環境に適合する資機材を使用するものとし、資機材の選定に当たっては監督職員から承諾を得ること。
なお、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の使用は、「段階確認」、「材料確認」及び「立会」だけではなく、現場不一致、事故などの報告時等でも活用効果が期待されることから、受注者の創意工夫等、自発的に実施する行為を妨げるものではない。
 - (2) 効果の検証
遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査を実施する場合は、調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示による。
 - (3) 費用

遠隔臨場の実施に掛かる費用については、積上げ計上していないが、「建設現場の遠隔臨場に関する実施要領（案）」（令和5年3月）の内容に従い、遠隔臨場の実施に要する費用を設計変更の対象とする。

なお、遠隔臨場の実施方法については、施工計画書提出までの協議において提案するものとする。
また、受注者はその費用について見積書を提出するものとする。

（４） 成績評定

遠隔臨場を実施した工事の成績評定は、考査項目「創意工夫」において、1点の加点とする。

第6条（電線共同溝）

本工事の実施にあたり適用する諸基準は、共通仕様書の定めによる他、監督職員の指示によるものとする。

10-12-5-2 管路工（管路部）

（１）電力ケーブル保護管（ECVP 管）

（i）許容屈曲半径

道路形態、既設埋設物件により曲り管路を築造する場合は、その屈曲半径は5 m以上でなければならない。

ただし、電柱への連系管路で保護バンド管を使用する場合はこの限りでない。

（ii）許容扁平率

直管を曲り管路に使用する場合は、その屈曲範囲は5 m以上でなければならない。この場合の曲げ加工による管の扁平率は90 %以上でなければならない。

扁平率＝（加工後の管内径〔短径〕）／（加工前の管内径）×100≧90

（iii）現場加工

a 管を現場で切断する場合は、管軸に対し直角に切断し、その端部は必ず面取り加工（1.5 mm 以上）を施さなければならない。

b 管の接続部は直線でなければならない。従って、曲り管の接続に際してもその両端には必ず50 cmの長さの直線箇所を設けなければならない。

（iv）通過性能（導通試験）

a 導通試験は全管路（引込管路及び連系管路は除く）について行わなければならない。不合格の場合は、再度掘削して手直しをするものとする。

b φ100の電力ケーブル保護管については、鉛製の管路試験棒（φ95 mm・L＝1300 mm）が通過すること。

c φ75の電力ケーブル保護管については、3号マンドレル（φ73 mm・L＝300 mm）が通過すること。

（２）通信ケーブル保護管（PV管）

（i）許容屈曲半径

道路形態、既設埋設物件により曲り管路を築造する場合は、その屈曲半径は5 m以上でなければならない。

（ii）通過性能（導通試験）

a 導通試験は全管路（引込管路及び連系管路は除く）について行わなければならない。不合格の場合は、再度掘削して手直しをするものとする。

b φ75のPV管については3号マンドレル（φ73 mm・L＝300 mm）が通過すること。

c φ50のPV管については、最小外周長13 cmのウエスが通過すること。また、φ25のPV管については、最小外周長8 cmのウエスが通過すること。

なお、ウエスは40 cm間隔で導通線に2箇所取付けたものであること。

（３）ボディV管

ボディ管内さや管については、50mm に対し外径 33mm、30mm に対し外径 220mm で L=5.0m のケーブルテストピースが通過すること。

(4) フリーアクセス V 管・SUDII-V 管

(i) 許容屈曲半径

道路形態、既設埋設物件により曲り管路を築造する場合は、その屈曲半径は 5m 以上でなければならない。

(ii) 通過性能（導通試験）

a. 導通試験は全管路について行わなければならない。不合格の場合は、再度掘削して手直しをするものとする。

b. $\phi 150$ のフリーアクセス V 管については、ウエスの最小外周長 42cm 以上 ($L = 40\text{cm}$) のもの、 $\phi 100$ の SUDII-V 管については、ウエスの最小外周長 28cm 以上 ($L = 40\text{cm}$) のものが通過すること。

(4) 埋設表示シート

管路の明示は、埋設表示シート（ピンク地・黒文字）を掘削埋戻標準図のとおり管路全面にわたって設置しなければならない。

(5) 共通事項

(i) 曲り箇所については、入線に支障のない所定の曲率半径を確保すること。

(ii) 管路・プレキャストボックス周辺の埋戻しについては、山砂または同等品を使用し、入念に水締めを行ったうえで締固めること。なお、開削土工（埋戻し）における中埋砂の水締めにかかる水代については、必要な場合は変更設計で追加するため、当初では計上していない。請負者が実使用量について資料を提出した場合、協議の上、変更設計で計上する。

(iii) ハンドホール等の柵と管路の接続部には、伸縮取付管、ダクトスリーブ等を設置し、入線への抵抗力を減じようにすること。

(iv) 管路については、埋設後に電線類を入線するものであるため、内部に鉄屑やごみ等が混入しないように施工すること。

現場への積卸しは管材端部を損傷しないよう注意して行うこと。

(v) 管路の設置の際は、必要に応じて管枕（スペーサー）を用いて間隔が均一となるよう施工すること。既設埋設物等の状況によりやむを得ず所定の間隔を確保できない場合は、監督職員の指示によるものとする。なお、管枕については、請負者が実使用量について資料を提出し、監督員と協議のうえ変更設計の対象とする。

(vi) 導通試験等、電力・通信柵内部の作業については、「酸素欠乏症等防止規則」における「酸素欠乏危険作業」であるため、同規則に基づく「酸素欠乏危険作業主任者」を選任し、必要な措置を講じること。

10-12-5-3 プレキャストボックス工(特殊部)

柵の蓋には、監督職員が指示する内容を明示すること。内部においては、事前に監督職員の指示を受けた上で、管路に管種等がわかるように明示すること。

第7条 低コスト化のための比較検討

管路部及び特殊部について、当初設計においては従来手法により積算・発注しているが、原則として、無電柱化における管路部等の低コスト化に資する技術を用いることとし、「NETIS テーマ設定型の比較表：無電柱化における管路部等の低コスト化に資する技術」も参考に、現地状況等を踏まえつつ比較検討を行い、採用する技術を決定すること。

なお、比較検討の結果、異なる手法が選定された場合は、検討費用も含め設計変更の対象とする。

※NETIS「テーマ設定型の比較表」（国土交通省）参照

(<https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubtheme/themesettings>)

第8条（その他の特記事項）

- 1 受注者は、必ず、着工前に工事ビラ「〇〇工事のお知らせ」を工事箇所の周辺住民に配布すること。
なお、様式等は監督職員の指示に従うこと。
- 2 沿道との施工調整等のため、請負者において工事ビラの作成・配布を行う場合は、ビラの内容等について監督職員の承認を得ること。
- 3 隣接する地元関係者（官公庁等も含む）との協議、施工区域、施工時間、施工日等に関する事項については、受注者の独自の判断で施工してはならない。必ず監督職員に報告し確認を受けること。
- 4 週間工程表については、前の週の木曜日までに監督職員へ提出すること。
- 5 掘削土の積込み等、施工に際し、周辺家屋や道路を汚損してはならない。誤って汚損した場合には、道路開放時間までに清掃するとともに、請負者の責で汚損へ対応しなければならない。
- 6 ゴミ収集作業及びし尿汲み取り作業に協力し、付近住民に迷惑をかけないこと。
- 7 騒音・振動等には細心の注意を払い、周辺住民から苦情が出ないようにすること。また、地域住民及び営業車両等からの苦情・要望等に対しては、速やかに監督職員に連絡し、その指示に従うこと。
- 8 交通規制を行う際は交通誘導員を配置し、周辺住民から苦情が出ないようにすること。
- 9 作業時間外における建設機械等（重建設機械を含む）による車道及び歩道の規制は行わないこと。
- 10 車道東側と西側を同時に交通規制することは避けること。
- 11 受注者は工事の着手までに地下埋設物等の道路占用物件の位置情報等を把握し、占用物件の管理者と密接に連絡を取って占用物件の破損及び占用物件に起因する事故の防止に努めること。
- 12 電線共同溝を既設地下占用物件に近接して設置する場合、関係事業者と立会し、必要な防護措置を講ずること。また、監督職員に関係企業者との協議内容を記載した立会調書を提出すること。
- 13 各占用企業者の人孔蓋については、高さ整調が必要であるかを必ず確認し、必要がある場合は監督職員に報告すること。
- 14 本工事施工に伴って止水栓ボックスの調整工事が発生する場合は、水道局各営業所の指示に従うこと。
- 15 枘内部においても、管路に入線種類がわかるように明示すること。
- 16 「管くずし部」については、参画事業者が後日入線する場合において、支障のないように配慮すること。
- 17 連系管路、連系設備、引込管路は、別途、電線管理者による工事を予定しており、同時施工となる場合は工事工程等の調整を密に行うこと。また、本工事で先行止めした管路の続きを電線管理者にて施工するため、先行止めの位置は正確に把握し、電線管理者の施工業者に引き継ぐこと。
- 18 電力枘のアース棒の設置については、電力系の電線管理者が行うため、施工時期等は事前に調整を行うこと。
- 19 製品仕様書および本設計図書に反して工事を施工した場合、改善またはやりなおしを命ずるが、その際は、速やかにその指示にしたがうこと。
- 20 監督職員との連絡は密にとり、疑義が生じた場合は監督職員と十分な打合せを行い、遺漏のないよう努めること。
- 21 本工事の引渡し完了までの間、現場代理人は、昼夜を問わず常時連絡が取れる体制を取る。
- 22 創意工夫等実施状況について、請負者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術

力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに提出することができる。なお、様式については監督職員の指示によるものとする。

2 3 本工事の施工にあたっては、「共通仕様書」、「特記仕様書（全工事共通編）」及び「特記仕様書（個別工事編）」とともに、下記基準等によるものとし、疑義のある場合は必ず監督職員に事前に確認を行うこと。

- (1) 京都市道路構造条例
- (2) コンクリート標準示方書
- (3) 舗装設計施工指針、舗装設計便覧、舗装施工便覧
- (4) 道路土工指針
- (5) 建設発生土利用技術マニュアル
- (6) 舗装調査・試験法便覧
- (7) 京都市 道路のためのバリアフリーの手引き（別途貸与）
- (8) 京都市電線共同溝マニュアル（別途貸与）
- (9) その他関係示方書・法令・規則等

2 4 後院通の計画高さが現況高さよりも下がることを考慮して施工を行うこと。

2 5 後院通の計画高さが現況高さよりも下がることから、排水構造物工施工後の路肩部において、路肩仮舗装によるすり付けを行うものとし、事故発生防止に努めること。

2 6 本工事は「京都市高齢者、障害者等の移動等の円滑化に必要な道路の構造及び特定公園施設の設置の基準に関する条例(平成25年4月1日施行)」、「京都市 道路のためのバリアフリーの手引き改正第2版（平成25年10月）」における勾配及び段差の基準を満たすことを原則とする。

基準を満たすことが出来ない箇所がある場合は、その旨を監督職員に報告するとともに、必要に応じて対応策を検討したうえで監督職員に提出し、以後の対応については、監督職員の指示に従うこと。

2 7 視覚障害者誘導用ブロックの色彩は黄色を標準とするが、請負者において周囲の舗装との輝度比が2.0以上確保できることを確認し、それによらない場合は監督職員と協議すること。また視覚障害者誘導ブロックの敷設位置及び配列については、設計図書による他、監督職員の指示に従うこと。

2 8 アスファルト舗装工において、日毎の施工箇所の端部では、アスファルト合材等により入念にすり付けを行うものとし、事故発生等防止に努めること。

2 9 工事中に既設の視覚障害者誘導ブロックを一時的に撤去する場合は、その間、仮設の視覚障害者誘導表示を行うなど留意すること。

3 0 本工事区間はバス路線となっていることから、運行管理者と十分協議のうえ、工事を実施すること。

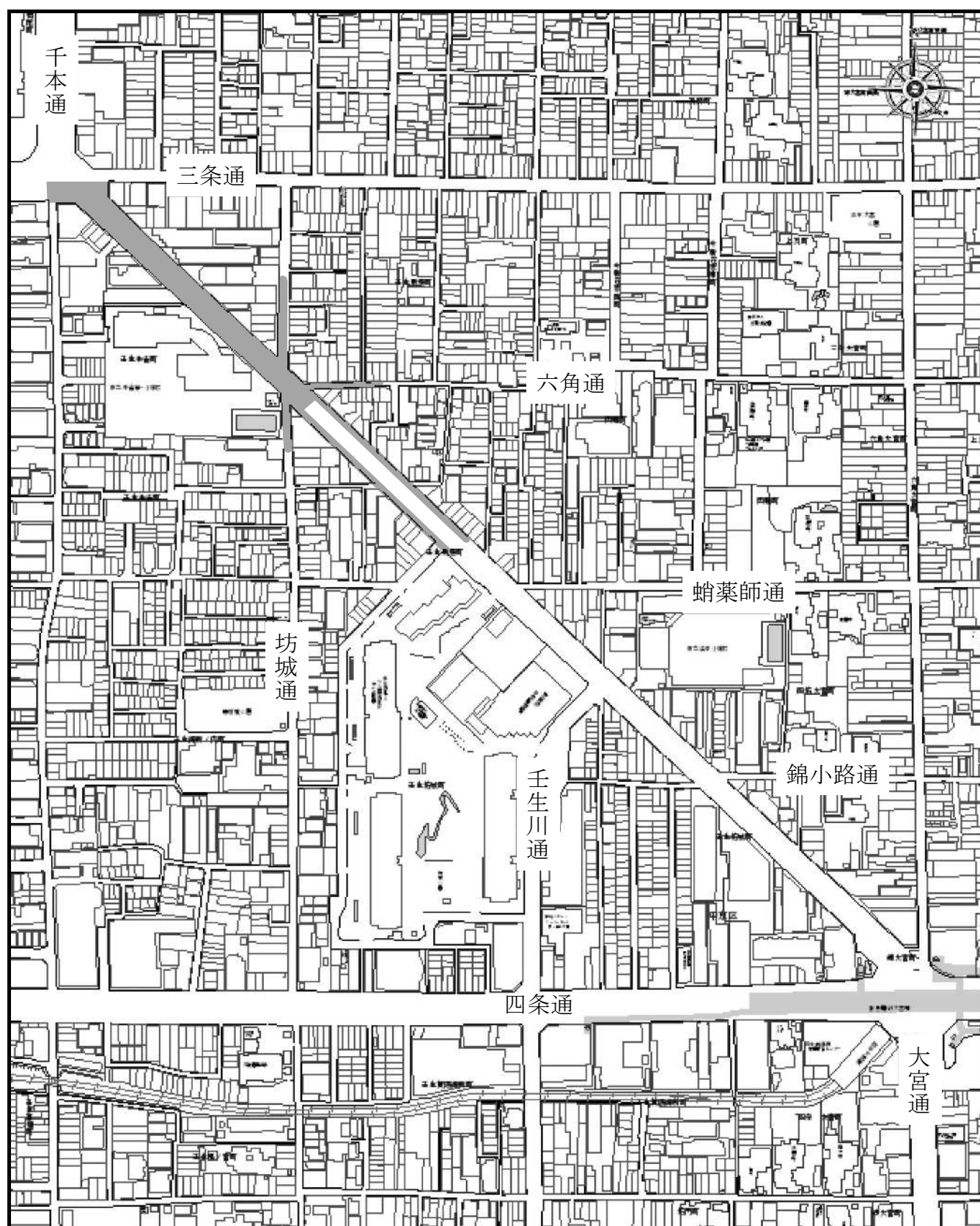
3 1 請負者は、工事着手後直ちに測量を実施し、測量標（仮 BM）、工事用多角点の設置及び用地境界、中心線、縦断、横断等の確認をすること。また、官民境界及び民地境界については民地側等の工事により消失しない箇所に控えを取り、写真を撮影し記録を残しておくこと。また、施工に際しては十分注意し、境界プレートの再現は監督職員の確認を得ること。

3 2 本体工事における工種：排水構造物工、種別：管渠工、細別：取付管布設及び支管取付工については、「下水道用設計標準歩掛表令和7年度－第1巻 管路－」の積算基準を用いている。

3 3 本体工事における種別：道路付属施設工にて計上している建設機械トラッククレーンの夜間割増については、夜間割増率：1.225としている。

- 3 4 その他については、監督職員の指示に従うこと。
- 3 5 本設計書で計上している試掘工については、プレキャストボックス設置箇所を試掘することとしている。その他の箇所を試掘する場合については、監督員と協議すること。
- 3 6 管路の掘削、排水構造物等の施工各工種において、歩行者等の安全を確保するため仮復旧を計上している。仮復旧の際は、既設舗装及び仮復旧部との段差には十分に注意すること。また、日々の施工の際に仮復旧の沈下等が確認された場合については、適切に対応すること。
- 3 7 本設計書において、後院通六角通交差点の信号設備撤去及び設置を計上している。歩灯器、車灯器については、既設灯器を流用するものとして積算している。その他、信号関連部材について、管理者である京都府警察、監督員と協議のうえ、処分、流用、返却するものとし、設計変更の対象とする。

箇所図



■ 本工事施工箇所